

実践のまとめ ～生徒が主体的に学ぶための授業づくり～

岐阜市立青山中学校 大下 圭介

☆ はじめに

今年度、青山中学校に赴任して、「生徒が主体的に学ぶ」とはどういうことかを改めて考える機会が多くあった。その中で、今年は下記の2点について実践した。

1. 学びの必然性がある課題の設定
2. ロイロノートの活用場の設定

1. 学びの必然性がある課題の設定

読むこと（イ）「文章を批判的に読みながら、文章に表れている主人公のものの見方や考え方について考えること。」に重点を置いた。より一つ一つの表現を深く読み味わい、探究的に学習するために、生徒が登場人物の言動や場面設定の意図を理解できるような課題設定を行った。

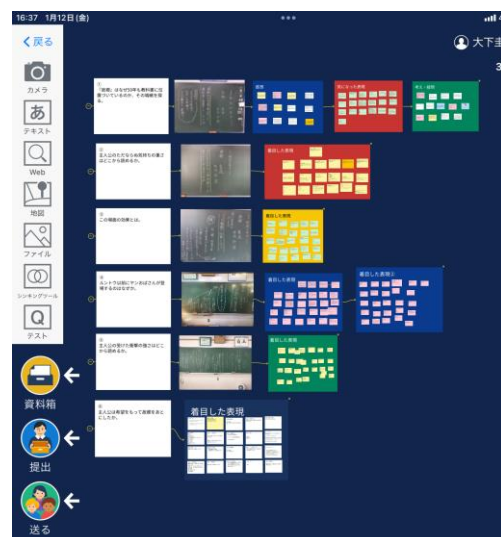
下記が、毎時間に設定した課題の一覧である。

時	課 題	評価規準
1	『故郷』はなぜ50年近くも教科書に位置づいているのか？ その端緒を探す。	知・技
2	帰郷した主人公のただならぬ気持ちの重さはどこから読めるか。(校外研公開授業)	知・技
3	思い出の中のレントウが登場する場面の効果とは。	思・判・表
4	レントウ登場以前に、ヤンおばさんが登場するのはなぜか。(中間発表会公開授業)	思・判・表
5	レントウとの再会で、主人公の受けた衝撃の強さはどこから読めるか。	思・判・表
6	最後に、主人公は、「希望」をもって故郷をあとにしたのか。	思・判・表 主体的に学ぶ姿

2. ロイロノートの活用場の設定

本アプリの「共有ノート」を、個人追究の場で活用した。生徒自身が課題に迫るために着目した表現を書き抜くようにした。例えば「主人公の受けた衝撃の強さはどこから読めるか。」という課題では、「旦那様！……」や「悲しむべき厚い壁」というように一つだけ、一言で共有ノートに送るように指示した。最初は自分自身で本文中の言葉を見つめ、選んだ言葉を提出する時間にした。その後、解答を共有して、生徒自身が似たような表現を選んだ仲間のところへ行き、意見を交流する「スクランブル交流」の形をとった。また、考えを構築することが難しい生徒も、共有ノートやスクランブル交流を通して思考することができた。

また、より課題に迫る内容が書いている生徒に板書をするように仕組み、生徒自身にアウトプットさせる時間を設けている。その板書を撮影し、共有ノートに上げ、「課題」「生徒の意見」「板書」をセットにして生徒に送った。これによって、毎回の授業の記録ができるとともに、教師と生徒、生徒と生徒との共有ができた。



☆ 成果と課題

- 教師の出場を考え、発問を吟味することで生徒たちが思考を広げる時間を確保することができた。
- ロイロノートの活用方法を考え、生徒同士で意見を共有させることができた。
- B評価からA評価に到達させるための深めの発問を吟味することができた。
- 同じ表現に着目した生徒をつなげるための教師のファシリテート力をさらに付ける必要がある。
- スクランブル交流のあとで、個に返してじっくりと深め、書かせる時間の確保をさらにしたい。

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名

—状況の中で— 『故郷』 魯迅 作 竹内好 訳
(第5時/全6時)

日時	令和5年10月23日(月)
場所	3年2組教室
公開学級	3年2組 31名
授業者	大下 圭介

2 単元について

「もともと地上に道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」

この作品は、こんな言葉で結ばれる。

主人公は、約20年ぶりに帰った故郷とそこに住む人々の変貌ぶりに落胆しつつも、それを乗り越えてよりよい社会を作るために強い意志をもって故郷に別れを告げるのである。

本作品は、辛亥革命前の時代の中国が題材となっている。国民が思い描いたような生活ができず、人も人の心も荒廃していた中で、主人公は故郷に別れを告げるために帰郷する。そこで主人公は過去の記憶(美しかった故郷)と目の前にある現実(廃れてしまった故郷)との大きな差を感じる。最初は自分の心境が変化しただけだと言いつつ聞かせることにしていたが、故郷で過ごせば過ごすほど、帰郷の際に感じた思い出と現実との「差」は確信的なものになっていく。普通であれば諦めたくなくなるような状況でも、一筋の希望に光を見出しながら生きていこうとする主人公がいる。

それはあたかも、あと半年足らずで中学校を卒業する生徒たちの姿に似ている。思い通りにならないこともあり、混とんとした思いを抱きながらも、希望を見出して生きていこうとする主人公の姿や心の動きに、今の彼らならば、大いに共感し得るであろうと想像できる。

本学級は、4月に学習した物語文『握手』において、ルロイ修道士との再会の場面と一周忌の場面に額縁効果が使われていることを理解して時間の流れを正確につかみ、登場人物の心情を大まかな流れの中で捉えることができた。また、伏線や行動描写の意味については、その一端に触れることができた。

そこで、学習指導要領の、読むこと(イ)「文章を批判的に読みながら、文章に表れている主人公のものの見方や考え方について考えること。」とあるように、文章を書いてあるままに読むのではなく、もとの文章を対象にして、登場人物の言動や物語の展開の意図を考え、作者(訳者)が用いた表現や登場する人物の容貌や言動が必然的なものであることを理解させたい。

また、この単元を通して言葉同士をつないだ表現の巧みに気付かせ、その魅力に浸りながら作品を読み取っていくことに重点を置きたい。そのために、細かな表現の差異に気付かせ、それを吟味したり検討したりしながら文章を批判的に読む力を付けさせたい。

3 単元指導計画

時	課 題	評価規準
1	『故郷』はなぜ50年近くも教科書に位置づいているのか? その端緒を探す。	知・技
2	1場面:P98~99 主人公のただならぬ気持ちの重さはどこから読めるか。	知・技
3	2場面:P100~P103 L11 この場面の効果とは。	思・判・表
4 本時	3場面:P103 L12~P105 L18 ルントウ登場以前に、ヤンおばさんが登場するのはなぜか。	思・判・表
5	4場面:P105 L19~P109 L7 主人公の受けた衝撃の強さはどこから読めるか。	思・判・表
6	5場面:P109 L8~P111 最後主人公は、「希望」をもって故郷をあとにしたのか。	思・判・表

4 ねらい

主人公がヤンおばさんと再会する場面を読むことを通して、ヤンおばさんの言動に関する表現や比喻表現から、風貌だけではなく内面も変わってしまったことを読み取り、ヤンおばさんがここで登場することで、もしかしたらルントウもかつてとは同じではないのかもしれないという気持ちを読者に抱かせる効果があることを理解できる。

5 評価規準（読むこと（イ））

文章を批判的に読みながら、文章に表れている主人公のものの見方や考え方について考えている。

6 本時の展開（第4時／全6時）

学習活動	指導・援助
<p>1 前時の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ルントウ」と聞いた瞬間、脳裏に不思議な場面が繰り返され広がられた。 ⇒ルントウは私の遊び仲間とは違、いろいろなことを知っている。 ⇒高い塀、四角い空の中で暮らす私とは違う、神秘の宝庫。 ⇒「ルントウ＝美しい故郷の象徴」 →やっと美しい故郷を見た思いがした。 <p>❓ わざわざこのタイミングでヤンおばさんを登場させる必要があったのか？</p> <p>2 学ぶ必然性のある課題を生み出す。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ルントウ以前にヤンおばさんが登場するのはなぜか。</p> <p>3 個人追究を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>甲高い声 頬骨の出た、唇の薄い、五十がらみの女 製図用の脚の細いコンパス→無機質・鋭さ・自分本位</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>かつては「豆腐屋小町」と呼ばれていておしろいも塗っていた。そのおかげで商売は繁盛していた。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・身分のあるお方は…… ・金持ちになったんでしょ。 <li style="padding-left: 20px;">⇔あたしたち貧乏人 ・知事様になっても金持ちじゃない？ ・金がたまれば……、財布のひもを締めるから…… </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>母からの口添えで初めて…… ⇒そうそう、思い出した。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>母 ルントウの近況を語る 「どんなって……、やっぱり楽ではないようだが……。」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ルントウもヤンおばさんも同じように苦しい思いをしている。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>もしかして、ルントウも……？</p> </div> <p>4 学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>主人公は、故郷の現状に違和感をもちながらも、親友のルントウのことを思い出し、やっと美しい故郷を見た気がしていた。しかし、かつて豆腐屋小町と呼ばれていた「ヤンおばさん」との再会によって、母親に指摘されないと分からなかったほど変貌してしまった容姿や、乱暴な物言いに言葉を失ってしまう。特に主人公がヤンおばさんを「製図用の脚の細いコンパス」と表現したことからは、彼女を無機質で、鋭くて、自分の理解の範囲内で起きたことしか理解しようとしないうふうに捉えていることが分かる。心を貧しくしてしまったヤンおばさんがルントウの前に登場することによって、もしかしたらルントウもそうってしまったのかもしれないという気持ちを読者に抱かせる効果がある。</p> </div>	<p>前時の内容を確認するために、ロイロノートの共有ノートを使い、生徒が前時までにシラバスにまとめた内容を共有する。</p> <p>学ぶ必然性のある課題を提示し、本時の見通しをもたせる。</p> <p>机間巡視を行い、生徒がどの表現に着目しているか把握する。</p> <p>生徒と本時の評価規準を共有する。</p> <p>A評価…帰郷時に感じた故郷への違和感と関わらせながら「ヤンおばさん」登場の理由に気づき、「ルントウ」がその後に登場する理由を考えている。</p> <p>B評価…「製図用の脚の細いコンパス」を根拠にして、「ヤンおばさん」の容姿の変貌に気づき、なぜあえてそのような表現にしたのかを考えている。</p> <p>共有ノートに、自分の着目した表現や読み取ったことを残し、お互いでインプット、アウトプットができるようにする。</p> <p>生徒のシラバスを適宜評価することで、より良い評価と比べた自分の立ち位置を自覚できるようにする。</p> <p>より深く交流できるように生徒のシラバスを確認し、アウトプットしあうのにふさわしい相手を見つけて交流に行くように促す。</p>

第3学年 国語科学習指導案

日時 令和5年10月28日(土)

場所 3年2組教室

公開学級 3年2組 31名

授業者 大下 圭介

1 単元名 状況の中で

『故郷』 魯迅 作 竹内好 訳 (第5時/全6時)

2 単元について

「もともと地上に道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」

この作品は、こんな言葉で結ばれる。

主人公は、約20年ぶりに帰った故郷とそこに住む人々の変貌ぶりに落胆しつつも、それを乗り越えてよりよい社会を作るために強い意志をもって故郷に別れを告げるのである。

本作品は、辛亥革命前の時代の中国が題材となっている。国民が思い描いたような生活ができず、国も人の心も荒廃していた中で、主人公は故郷に別れを告げるために帰郷する。そこで主人公は過去の記憶(美しかった故郷)と目の前にある現実(廃れてしまった故郷)との大きな差を感じる。最初は自分の心境が変化しただけだと言いつけることにしていたが、故郷で過ごせば過ごすほど、帰郷の際に感じた思い出と現実との「差」は確信的なものになっていく。普通であれば諦めなくなるような状況でも、一筋の希望に光を見出しながら生きていこうとする主人公がいる。

それはあたかも、あと半年足らずで中学校を卒業する生徒たちの姿に似ている。思い通りにならないこともあり、混んとした思いを抱きながらも、希望を見出して生きていこうとする主人公の姿や心の動きに、今の彼らならば、大いに共感し得るであろうと想像できる。

本学級は、4月に学習した物語文『握手』において、ルロイ修道士との再会の場面と一周忌の場面に額縁効果が使われていることを理解して時間の流れを正確につかみ、登場人物の心情を大まかな流れの中で捉えることができた。また、伏線や行動描写の意味については、その一端に触れることができた。

そこで、学習指導要領の、読むこと(イ)「文章を批判的に読みながら、文章に表れている主人公のものの見方や考え方について考えること。」とあるように、文章を書いてあるままに読むのではなく、もとの文章を対象にして、登場人物の言動や物語の展開の意図を考え、作者(訳者)が用いた表現や登場する人物の容貌や言動が必然的なものであることを理解させたい。

また、この単元を通して言葉同士をつないだ表現の巧みさに気付かせ、その魅力に浸りながら作品を読み取っていくことに重点を置きたい。そのために、細かな表現の差異に気付かせ、それを吟味したり検討したりしながら文章を批判的に読む力を付けさせたい。

3 研究について

【研究内容1-1】

生徒が自ら学び」を創り出す単元の構想

(1) 単位時間のつながりを意識した単元の構造

単位時間ごとに「着目するポイント」「本時の課題」「振り返りを記入する欄」を位置付けたシラバスを作成している。本教材は、20年ぶりの帰郷時から、故郷の人との再会を経て、故郷に絶望しながらも、物語終末には自分の目指す社会を作っていこうとする主人公の強い意志が感じられる。その感情を読み取るために、物語の伏線に着目するためのキーワードや、登場人物の登場意図に気付くためのシラバスを作成する。そうすることで、50年以上教科書に掲載されている物語の魅力を批判する力を付けさせたい。

(2) 生徒が単元の見通しをもち学んでいくための単元の構造

本単元で学ぶことや付けたい力を明確にするために「本時の課題」を事前に設定する。

本単元では考えたい課題を「『故郷』はなぜ50年近くも教科書に位置付いているのか」に設定して、場面の比較などをしながら主人公の心情の変化に関わる表現を捉えさせたい。そして、そこから作者がこの作品に込めたメッセージを考えさせたい。

【研究内容1-2】

生徒が「分かる・できる学び」を創り出す単元の構想

(1) 単位時間の授業の構造

前時、心身ともに貧しくなったヤンおばさんの登場理由から、ルントウも同じ境遇になっているかもしれないと予想したことを確認する。また、彼女との再会時の「どきんとした」という表現をもとに、ルントウとの再会の場面の衝撃の度合いを比較できるようにする。母親に指摘されてやっと思い出したヤンおばさんに対して、姿が変わってしまったがすぐに分かったルントウの存在から、ルントウに対して並々ならぬ期待があったことと、だからこそ衝撃が強かったことをつなげて考えられるようにする。具体例として「身震いしたらしかった」という表現から、自分事としてとらえられていない主人公の心情が読み取れる。ヤンおばさんとの再会の場面と昔のルントウの様子とを比較して衝撃の強さを「悲しむべき厚い壁」を根拠にして読み取れるようにしたい。

4 ねらい

主人公がルントウと再会する場面を読むことを通して、かつての良き思い出の中のルントウを探す主人公と、現在の身分の差をわきまえてうやうやしく接するルントウとの気持ちの差に着目し、再会の瞬間に味わった主人公の悲しみに気づき、故郷に対する主人公の心情がより一層落ち込んだことが理解できる。

5 評価規準（読むこと（イ））

文章を批判的に読みながら、文章に表れている主人公のものの見方や考え方について考えている。

6 本時の展開

学習活動	研究との関連（◇）及び留意点（・）
<p>1 前時の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親から説明されてやっと思い出した「ヤンおばさん」。 ⇒ルントウより前に出会うという設定……後の不安をあおる ⇒話しかけられてどきんとした……ルントウと再会したときはそれよりも大きいのか小さいか？ <p>2 学ぶ必然性のある課題を生み出す。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">主人公の受けた衝撃の強さはどこから読めるか。</p> <p>3 個人追究を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 倍の背丈・黄ばんだ肌の色・畳まれた深いしわ・赤く腫れた目の周り・古ぼけた毛織の帽子・太く節くれだった松の幹のような手 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; display: inline-block;"> ルントウは、当時とは似もつかない姿だったがすぐに分かった。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; display: inline-block;"> 私にとって、かつてのルントウは神秘の宝庫であり、憧れの存在であり、美しい故郷の象徴であった。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; display: inline-block;"> 何かを言おうとして飲み込み、うやうやしい態度になって </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; display: inline-block;"> 「旦那様！……。」 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; display: inline-block;"> 身震いしたらしかった。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; display: inline-block; border: 2px solid orange;"> ・自分事としてとらえられないほどのショック ・かつての故郷像の崩壊 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; display: inline-block;"> 悲しむべき厚い壁 </div> <p>その後の会話の場面には、主人公の話し言葉は出てこない。 →まだ自分事としてとらえられず、茫然としてみている。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 故郷の現状や、心を貧しくしてしまったヤンおばさんを目の当たりにしながらも、ルントウだけは違うとかすかな望みをもっていた。再会したルントウは深いしわが畳まれ、松の幹のような手で、容姿もみすばらしくなっていた。それでもすぐにルントウだと分かり、再会に感動していた主人公だが、それを壊したのはルントウの「旦那様！……。」という言葉だった。かつての小英雄ルントウの幻影を探す主人公にとって、「悲しむべき厚い壁」を感じた瞬間だった。そして、それは同時に主人公の故郷像が崩壊した瞬間だった。その出来事に、身震いしたことも自分事としてとらえられないくらいの衝撃を感じている。それは場面後半に主人公の話し言葉がなく、うわの空で聞いているような表現からも分かる。 </div>	<p>研究との関連（◇）及び留意点（・）</p> <p>【1-2】単位時間の授業の構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇前時、心身ともに貧しくなったヤンおばさんの登場理由から、ルントウも同じ境遇になっているかもしれないと予想したことを確認する。 ◇再会の「どきん」をもとに、ルントウとの再会の場面を比較できるようにする。 ◇シラバスでは、ルントウの零落ぶりが、具体的にどの表現から分かるかを明確に書くことを指導する。 ◇生徒と本時の評価規準を共有する。 <p>A評価…「故郷」「思い出の中のルントウ」「ヤンおばさん」との再会時に感じた「差」や、前時までの内容とを比較しながら美しい故郷の象徴だったルントウの一言によって、故郷像が崩壊したことを読み取っている。</p> <p>B評価…「悲しむべき厚い壁」を根拠にして、ルントウと再会したときの主人公の受けた衝撃の大きさを読み取っている。</p> <p>【1-3 (2)】多様な学びにつながる指導・援助の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇自分の考えをアウトプットするように促す。(場合によっては生徒が板書できるように場を整える) ◇ロイロノートの「共有ノート」を使い、生徒同士の意見の交流を円滑にする。 ◇より端的に表現できる言葉を根拠にして、自分の考えをまとめるように推敲する。 ◇考えの変容は、消さずに残しておくように伝える。 ◇話し合っているグループの行き詰っている部分を解決しそのような考えをもった仲間を紹介する。 ◇個に応じた机間指導をする中で、考えの中心はどこにあるのかを、整理する。